

トリプルネガティブ乳がんにおける IMP3 発現の意義

2020 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までに、乳房疾患の診断・治療のため、乳房の生検や手術を受けたトリプルネガティブ乳がんの女性患者さん及びそのご家族の方

研究協力をお願い

日本医科大学多摩永山病院乳腺科では「トリプルネガティブ乳がんにおける IMP3 発現の意義」という研究を行います。この研究は、2020 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までに、乳房疾患の診断・治療のため、乳房の生検や手術を受けた患者さんの病理組織標本を用いて、トリプルネガティブ乳がんにおける IMP3 発現を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

研究課題名：トリプルネガティブ乳がんにおける IMP3 発現の意義
研究予定期間：研究機関の長の実施許可日～2025 年 12 月 31 日
調査対象期間：2020 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日
研究責任者：日本医科大学多摩永山病院 乳腺科 八木美緒

(2) 研究の意義、目的について

乳がんは女性の 9 人に 1 人が罹患する時代となり、そのなかでもトリプルネガティブ乳がんは一般的に予後が悪く、再発のリスクも高いことで知られています。Insulin-like growth factor- II mRNA-binding protein 3 (IMP3)は、がん胎児性タンパクで、IMP3 の高発現と癌の悪性度、予後との相関が報告されています。今回当院でもトリプルネガティブ乳がんにおける IMP3 の発現と乳がんの悪性度や治療効果、予後に関する関連性等を明らかにすることを目的とします。

(3) 研究の方法について (研究に用いる試料・情報の種類)

2020 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までに、日本医科大学多摩永山病院乳腺科にて、乳房疾患の診断・治療目的で、乳房の生検、または手術を受けられたトリプルネガティブ乳がんの女性の患者さんの病理組織標本を用い、IMP3 の発現を解析し、癌との関連性についての検討を行います。本研究のために新たに採取する検体はありません。この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。
試料：乳房生検時、または手術時に切除した病理組織標本
情報：年齢、性別、病変の大きさや進行度、病理診断名、治療内容、治療効果、転帰など診療録から得られた情報

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (文部科学省・厚生労働省)」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

担当者：乳腺科 八木美緒
日本医科大学多摩永山病院 倫理委員会事務局
〒206-8512 東京都多摩市永山 1 丁目 7-1
電話番号：042-371-2111 (代表) 内線：2302
メールアドレス：nagayama-chiken_center@nms.ac.jp